

経営比較分析表（平成29年度決算）

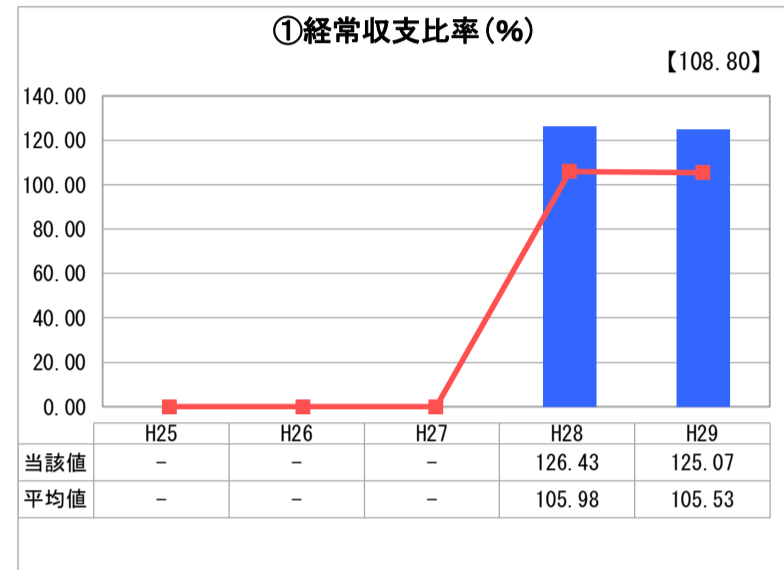
長野県 中野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	44.56	56.51	81.20	3,510

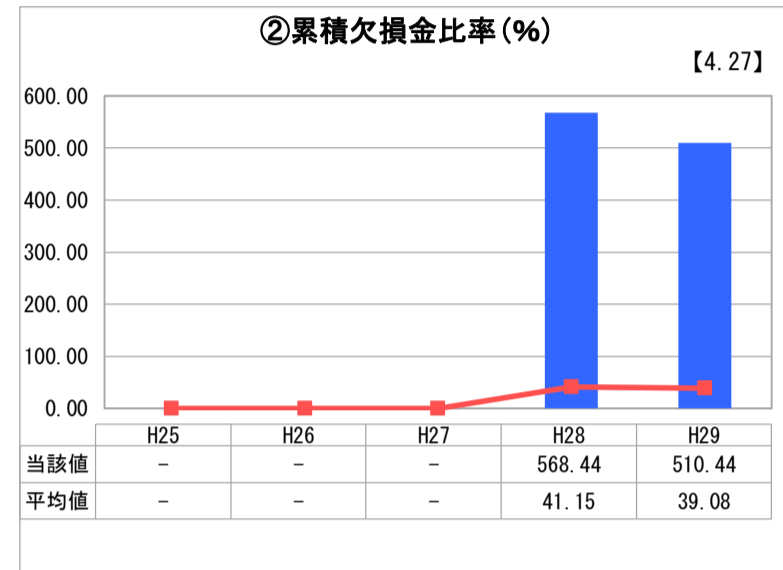
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,984	112.18	401.00
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
25,284	7.85	3,220.89

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

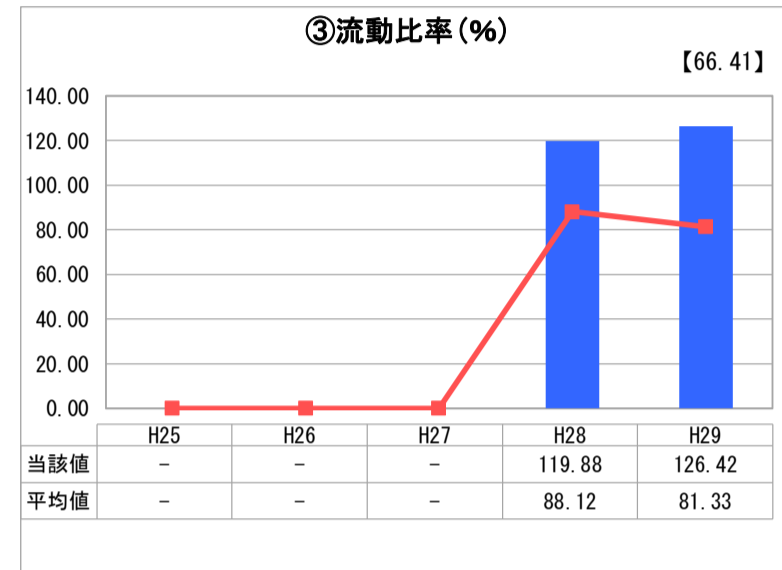
1. 経営の健全性・効率性



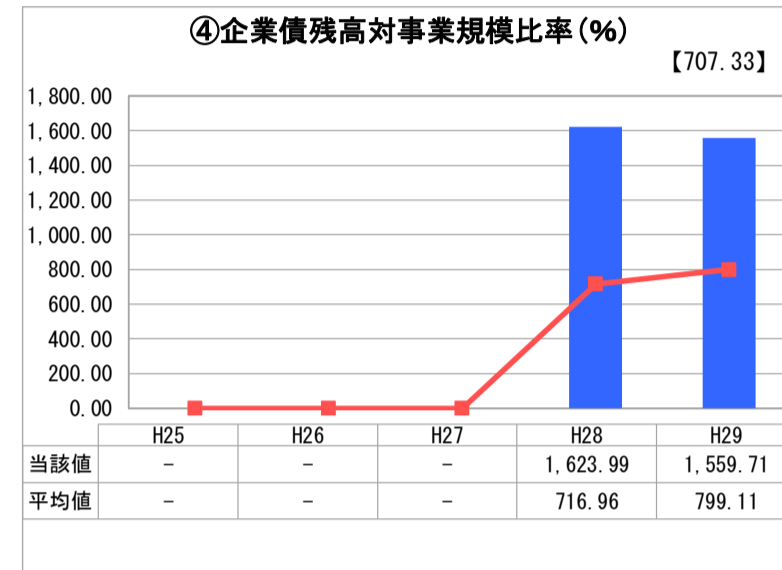
「経常損益」



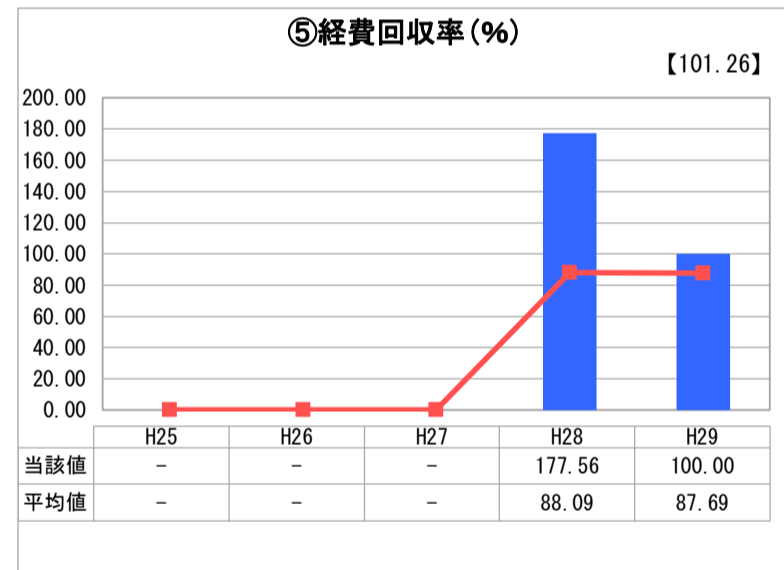
「累積欠損」



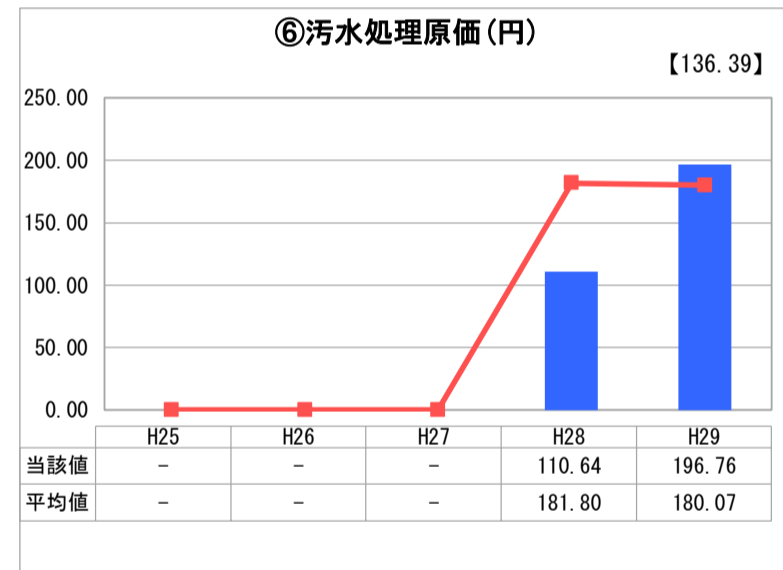
「支払能力」



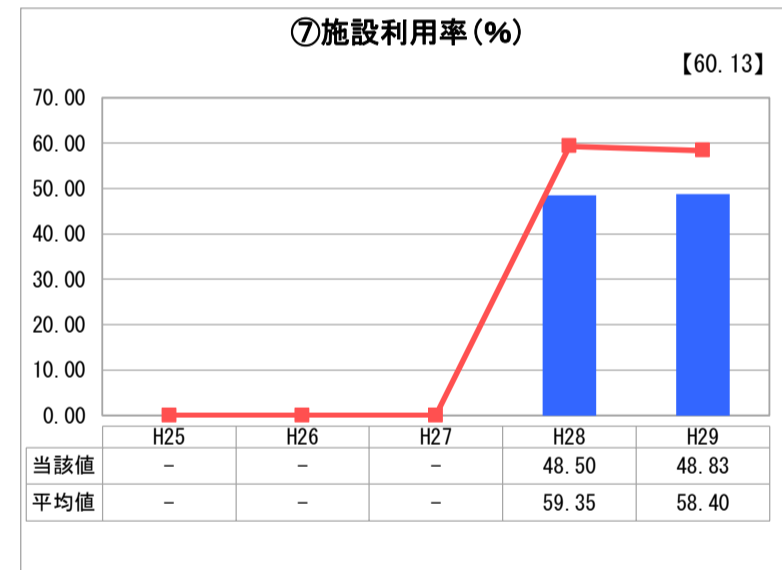
「債務残高」



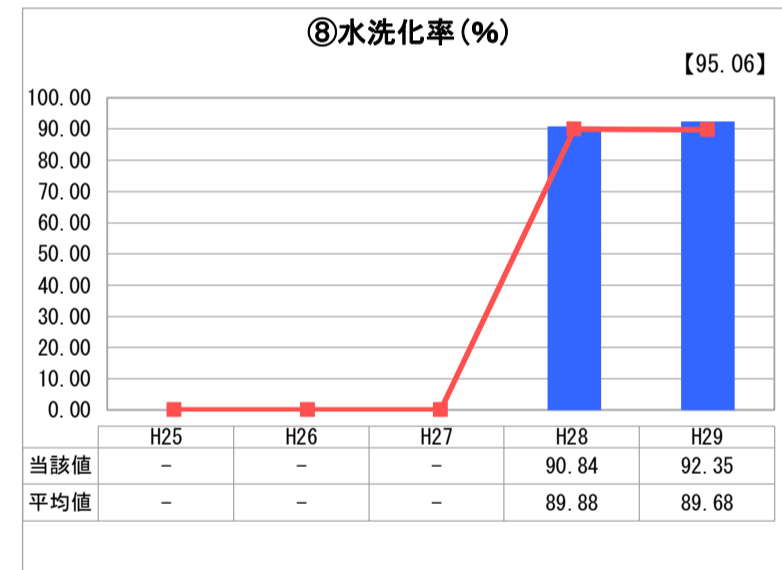
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

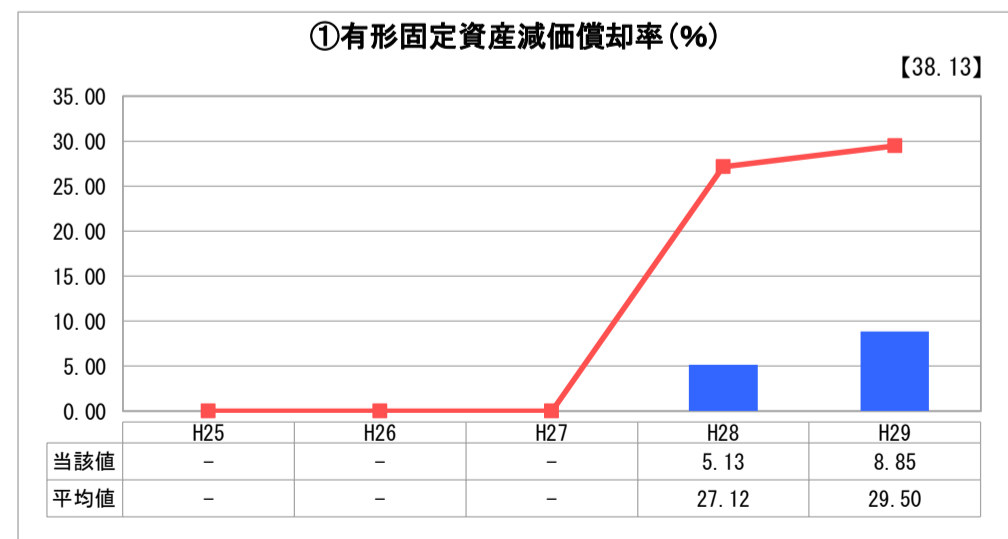


「施設の効率性」

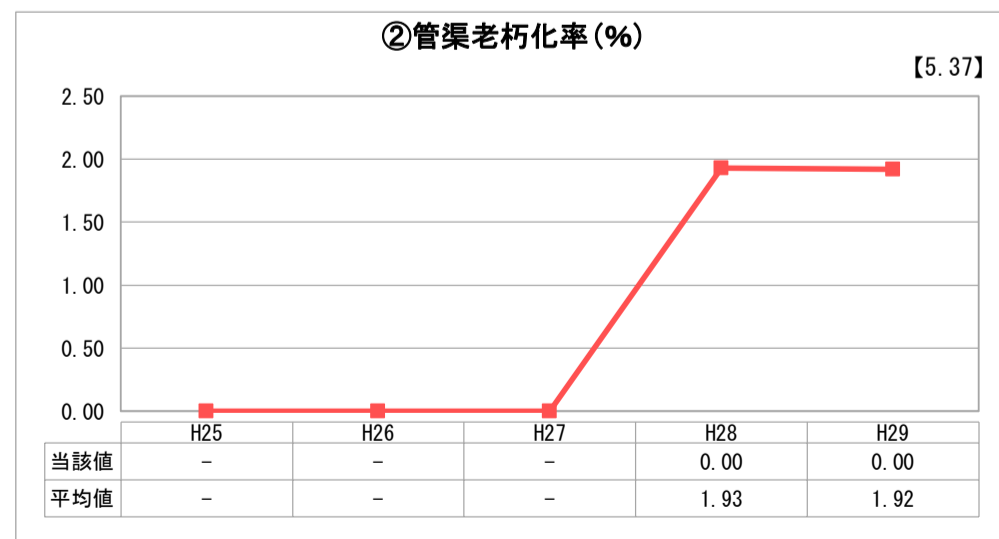


「使用料対象の捕捉」

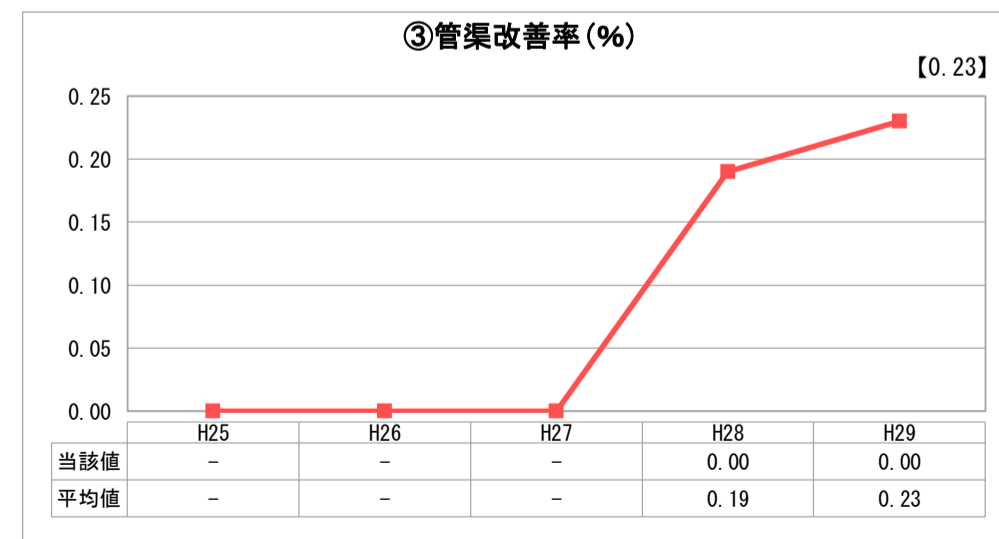
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・企業債による負債の他繰延収益の長期前受金が多額であることから累積欠損金が発生している。経営戦略等で収益性の向上及び経営の健全化を図る。
 ・施設の統合を進めていくことで維持管理費の削減及び更新費用を抑制し、使用料の改定を視野に入れつつ長期的に使用料収入の確保に努める。

2. 老朽化の状況について

・供用開始から30年が経過し、施設の老朽化も進んでおり、維持管理経費が増加傾向にある。
 ・平成28年度から中野浄化管理センターでは再構築事業として長寿命化工事及び耐震化工事を行っていることからこれに伴う維持管理経費については削減が見込まれる。

全体総括

・老朽化は進んでいるが、施設の処理能力はまだ十分にあることから、老朽化の進んだ農業集落排水施設との統合を進め維持管理経費を削減し、経営の効率化を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。